

「はぁ♥はぁ♥・・・え?・・・エ・・・エクセリオン様、気が付いたあ?」
「こいつ、気が付いてるぜ。だって見ろよ。くくく、包茎チンポが勃起してるじゃん笑。
マイちゃんの喘ぎ声で興奮しちゃったか?じゃあ、もっともっと興奮させてやるよ笑。こ
いつの目の前でやろうぜ」

「ん、ぎぎ!ぶぶ・・・ぶぶぶば! (あ、あわ!首・・・回らねえ★★★)」

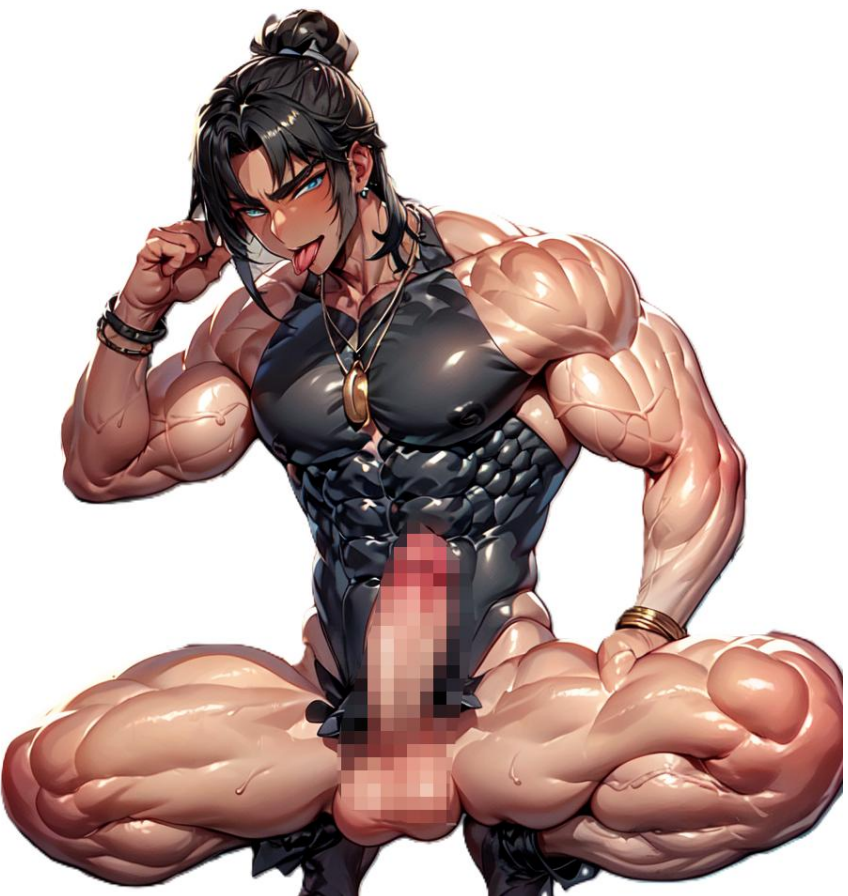
「声も出ないだろ?ガチで俺の張り手くらったら、もどに戻るまでに2日はかかるぜ笑」

「ぎ・・・ぐぐぐ・・・ぶぶう★★★(そ・・・そんな・・・ああ★★★)」

「その無様な格好のまま、2日間はセックス、お預けだな笑。心配すんなってマイちゃん
はたっぷりかわいがってやるよ!!」

「んんん・・・ぶぶぶぶぶう!! (そんな・・・やめてくれえ!!)」

「ゲラゲラ!その無様な格好で、黙ってみとけ、おら!マイちゃん♥また気持ちよくなろ
つか♥」



「ああん♥そんな・・・エクセリオンさまにいじわるしないでえ♥・・・はぁあん♥ああん♥
また乳首・・・擦っちゃ♥・・・いいん♥」

「へへへ。乳首吸いながら、乳揉みからの、手マン攻めえ♥」

「ちゅう♥ちゅう♥ちゅばちゅば♥くちゅくちゅ♥ぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅ♥」

(ここ・・・今度は3点責めかよお★★★好き放題やりやがってええ★)

(くう★見えないのが・・・また興奮するう★★★・・・想像でモヤモヤしちまう★★★)

「乳首吸われると・・・気持ちいい♡・・・アへえ♡・・・クリもいじられて・・・あほおこの、格好・・・恥ずかしい♡・・・大股開きで抱えられちゃってる♡」

（おお・・・大股開きで手マンかよお★・・・俺の正面でそんなエロい格好で・・・）俺の勃起包茎チンポは、つるつると透明なガマン汁を無様に垂れ流していた。

「じゅぷっ♡じゅぷっ♡じゅぷっ♡じゅぷっ♡♡！！」

（おお！おお！マン汁音すっげえ・・・★★）

「ままま、また・・・でで・・・出ちゃうう・・・♡はああああ♡・・・いぐう♡」

「じゃぶじゃぶじゃぶう♡ばしや♡ばつしやああ♡」

マイの潮吹き汁が俺の勃起ペニスを直撃する。

「んぎぎぎい・・・★★★！！！！（イクうう・・・★★★）」

熱くたぎったエロ汁の洗礼を受け、俺はノーハンドマゾ射精を決めてしまう。

「ぴゅ★！どぴゅ★！ぴゆる★！ぴゅ★・・・ぴゆる★」

「こいつ、ノーハンドマゾ射精キメてるぜ？興奮しすぎい。ゲラゲラゲラ笑」

「はあ♡はあ♡はあ♡・・・また、お潮・・・出ちゃったあ♡」

「マイちゃんよお。今度は俺も気持ちよくしてくれよ♡俺のデカチンいじつてよ♡」

「はああん♡ぶつとくて、長い・・・デカチンチン♡」

「お返しで、手コキ攻めしてね♡」とベルル。

「シコシコシコシコシコ・・・♡」

「おお♡いきなり・・・手コキ、早ええ♡」

「すご！まだ大きくなるんだあ♡」

「ビキビキビキ！ビクンビクン♡」

「はあん♡デカすぎい♡」

「よし、じゃあ、その負け組ドM短小包茎チンポ君に実況してやれよ♪」

「はい・・・太さは・・・ゆ・・・指輪っかが作れません♡太すぎて♡。長さは・・・えーっ

と・・・すご！24センチ君でーす♡。亀頭は・・・すごい♡ぼっこりと大きくて・・・エラ

が張りかえってる♡・・・血管も幾筋も浮き出でて、硬さもバッキバキい♡・・・ああ♡

もうダメ♡おしゃぶりますう♡」

「むちゅ♡ちゅ♡んぼんぼん♡ちゅっ♡ちゅば♡えろれろ♡」

「あはははは。我慢できなくなっちゃったか？いっぱいおしゃぶりしろよ♡」

「ふる！ふるふる！」俺は自分のチンポをふるふると震わせたさせた。

（そんなあ・・・躊躇なく、ベルルのチンポにむしゃぶりつくなんて・・・俺の目の前で！）

「あははは。興奮しすぎだぜ♪包茎チンポが勃起して痙攣してるぜ！」

「ぐぐぐ・・・ぶぶ★・・・ぶう★・・・ぶば★（ううう・・・うお★・・・うお★・・・うお★）」

「ほらデカパイで挟めよ♡パイズリフェラやれ♡」

「ふあい（はあい）♡へかちん（でかちん）♡はいしゅき（大好き）♡」

「啞えながら言っても何言ってるかわかんねーよ♡オチンポ好きすぎだろ？・・・うお♡

チンポ気持ちいい♥パイズリ・・・やべえ♥」

（そんなぁ・・・★マイの奴、本気でおしゃぶりしてるぅう★・・・っーか・・・ベルルのチンポ・・・凄すぎい！あんなにデカいなんて・・・俺のとは亀頭の大きさも形も・・・太さも、長さも・・・全然違うぅう！）

俺はベルルの24センチの極太ズル剥け勝ち組イケメンデカデカチンポと自分の15センチの皮被り包茎クソ雑魚粗チンポを比べて、大嫉妬してしまう。

ベルルは勝ち誇った表情でマイの頭を優しく撫でながら、フェラチオの快感に酔っている。マイも無様なひよつと顔をさらし、必死にデカチンを貪っている。

「パフパフ！パフパフ！んぽんぽんぽ♥ちゅっ♥ちゅば♥」

「マイちゃんってば、デカチン大好きっ娘じゃねーか笑。一心不乱におしゃぶりしちゃって♥もう俺のデカチンにメロメロだなぁ♥」

（ぎぎぎ・・・悔しい・・・羨ましい・・・ちくしょー★★・・・）

「びゅく！びゅく！」俺は興奮のあまり、精子交じりの濁りまくった我慢汁をびゅくびゅくと噴き出していた。